

はじめに

「予測困難な時代」「先行き不透明」などの言葉を、社会情勢を語るときによく耳にいたしますが、世界は今まさにその状況に置かれています。

この原稿を書いている令和2年の年末には、忘年会はおろか会食の自粛、帰省時期に交通機関の減便という「非日常」があり、一方で人々のマスク姿という「日常」があります。ウイルス自体は目には見えませんが、明確な脅威として存在し、予測できない未来に怯える毎日です。一年前の「年の瀬」に、誰がこの状況を予測できたでしょうか。

この一年、学校現場におきましては、休校措置や行事の延期・中止を繰り返す、教育活動に多くの支障がありました。見通しが立たない明日に向かって、子どもたちや先生方は懸念と不安を胸にしなが、必死にウイルスと戦う日々を送っています。大切な命を預かる学校現場は医療現場と同様に苦勞されており、皆様の御努力には本当に頭が下がります。

当センターにおきましても、当初休館や講座中止の措置を取りました。しかし、その後講座内容に修正や変更を加え、感染防止に努めながら研修講座を展開してまいりました。

各教育関係機関・団体が、授業を公開する集合・対面研修を中止してきた中で、唯一上川教育研修センターだけが、授業研究・研究協議を実現できたのは、講師の先生方と研究協力校や授業会場校の校長先生をはじめ職員の皆様のひとかたならぬ御理解と御協力があったからです。先生方の熱い思いと温かい御配慮に心から感謝と敬意をお伝え申し上げます。

その講座や研究協議の様子から強く感じていることがあります。先生方が、真剣なことはもちろんなのですが、話し合っている雰囲気を楽しそうで、皆生き生きと参加していることです。熱心に語り合う姿、質問している姿、そういう姿に、先生方の「学ぶことへの渴望」を強く感じています。

他から学び、自分の仕事に生かしていきたいという職業意識にも深く感銘を受けました。これは教師の本能であるのかもしれませんが。教師とは何と尊い職業なのでしょう。

教師として出会ってきた子どもたちはどんな時も明るさを忘れてはいませんでした。絶望の中でも笑顔を見せてくれることがありました。そんな子どもたちに私たち大人は幾度となく元気づけられ、勇気づけられてきたものです。

周りがどんなに辛く苦しい状況にあっても、子どもたちが過ごす学校を、教室を、楽しく居心地の良い場所にしていかなければなりません。それが私たちの務めです。

令和3年度の研修事業計画におきましては、新型コロナウイルス感染防止のため、事業内容の精選を図り、刻々と変化する感染状況に対応できるよう単年度措置の推進計画を立てております。学校現場の動きと連携しながら、研修講座を実施していくこととなりますが、先生方の弛まず学ぶ姿にセンターとして精一杯応えていきたいと考えています。

講師の先生方には、これまでと同様に管内教職員を中心に、北海道教育大学旭川校等の大学、教育行政機関、有識者などから幅広く講師をお願いし、講座内容の充実に努めてまいりたいと思っておりますので、多くの先生方の受講をお待ち申し上げます。

令和3年4月1日

上川教育研修センター

所長 福 家 尚